

平成29年度各部の重点取組の取組結果

部(局)名	水道部
部(局)長名	岡本 武

【基本姿勢】

本市がめざすべき水道事業の姿を「地域の水道として、お客さまとともに、安定した安心・安全の水道」とし、その実現に向け事業に取り組みます。

安全な水道を快適にお使いいただけるように、水道GLP（優良試験所規範）を維持するとともに経年化した施設の更新などを進めます。また、災害時や事故時においても安定して水道水を給水できるように、施設の耐震化、危機管理の対策などを進めます。

経営面においては、経営基盤の安定を図るために、設備投資等の支出とその財源となる収入の均衡がとれた財政計画を備えた新たな水道事業ビジョン（地域水道ビジョン）の策定に向けた取組を進めます。

市民のみなさまの生活や社会活動に欠かすことのできない水道を将来にわたり持続するために、積極的な情報提供や各イベント等でのPR活動を実施し、地域の水道として親しみをもっていただき、みなさまとともに水道を守り育てることができるよう努めます。

【達成度について】

A：達成（設定した目標を達成することができた。）

B：一部達成（設定した目標の一部のみ達成することができた。）

C：未達成（目標達成に向け取り組んだものの、目標達成には至らなかった。）

【重点課題】

	重点課題	平成29年度 達成状況
1	吹田市水道施設マスタープランに基づく水道の再構築	A
2	経年化した浄配水施設・管路の更新	B
3	基幹管路の耐震化をはじめとした災害対策の強化	B
4	より安全でおいしい水の供給	A
5	積極的な情報の提供とPR・啓発活動・広聴活動の実施	A
6	安定した経営基盤の継続	A

部(局)名	水道部
-------	-----

重点課題 1	吹田市水道施設マスタープランに基づく水道の再構築
--------	--------------------------

全体の達成度
A
達成

目指すべき方向 (中期的な目標)	老朽化した施設が次々と更新時期を迎える中、おおよそ40年先の水道施設の将来像を描いたマスタープランに基づき、長期的な視野で水道施設の再構築に取り組みます。
---------------------	---

活動目標	具体的な取組実績
市域南部の拠点施設と位置付ける片山浄水所の処理施設を膜ろ過方式を導入した浄水処理施設へ更新していきます。	新たな浄水処理施設構築に向けて、工事業種ごとに分離発注した工事間の調整を行いながら、既存施設（企業団系流入出管、片山場内管、ポンプ室等）の整備を進めました。
片山浄水所と泉浄水所を相互にバックアップするため、シールド工法による直径1mの連絡管の整備を進めます。	地中にトンネルを作るために使用するシールドマシンの製作が完了しました。また、シールドマシンの発進基地を整備するために、工事ヤード内で支障となる樹木及び構造物の移設、撤去と整地工事を行いました。

達成目標	達成状況	達成度
片山浄水所水処理施設更新工事の計画的な進捗を図ります。	片山浄水所水処理施設更新工事の電気・機械設備工事をそれぞれ契約しました。新施設構築のため、土木工事を中心に既存施設の整備を行い、土木・電気工事を完了するなど、地元の協力をいただきながら、概ね計画通り進めることができました。	A 達成
片山浄水所・泉浄水所連絡管布設工事の計画的な進捗を図ります。	発進基地の整備及び発進立坑の構築が完了しました。また、一部工程の変更はありましたが、シールドマシンの製作が完了するなど、概ね計画通りの進捗を図ることができました。	A 達成

総合評価・総括
<p>片山浄水所の処理施設更新につきましては、業種ごとに分離した工事をすべて契約でき、各工事ごとの取合い調整を進めてきました。平成29年度は主に土木工事の配管、場内造成を進めてきました。その中で、基礎工事の見直し等の検討に時間を要しましたが、新たな仮設方法により引き続き場内造成を進めるなど、計画的に浄水処理施設の構築を進めていきます。</p> <p>片山浄水所と泉浄水所をつなぐ連絡管の整備につきましては、シールド工事を行うために必要な発進基地の整備及び発進立坑（シールドマシンが発進するための縦穴）の構築のほかシールドマシンの製作が完了するなど、おおむね計画通りの進捗を図ることができました。</p> <p>今後、平成30年度のシールド発進に向けて、坑内外設備及び防音ハウスの設置等、地域住民の方々に対して周辺環境に配慮しながら、十分な安全管理のもと進めていきます。</p>

部(局)名	水道部
-------	-----

重点課題 2	経年化した浄配水施設・管路の更新
--------	------------------

全体の達成度
B
一部達成

目指すべき方向 (中期的な目標)	経年化した浄配水施設・設備や配水管路を計画的に更新していきます。
---------------------	----------------------------------

活動目標	具体的な取組実績
経年化した浄配水施設の更新・改良を計画に基づき着実に推進します。	山田西給水モニター他改修工事、泉浄水所汚泥ポンプ設備更新工事、泉浄水所第2電気室無停電設備更新工事、泉浄水所他流量計更新工事、ろ過池流入弁更新工事を実施しました。
年々経年管路が増加する中、更新工事を計画的に実施します。	耐震性を有しない印ろう継手鋳鉄管及びビニール管を優先しながら、布設後40年を経過した経年管約4kmを耐震性を有する新しい管に布設替えしました。

達成目標	達成状況	達成度
本市の更新基準に基づき、ポンプ設備・電気設備及び計装設備の更新・改良を進めます。	更新基準に基づき、おおむね当初の予定どおり更新・改良を実施しました。	A 達成
経年管更新工事を約5km実施し、平成29年度末の経年化管路率を37%に抑えます。	経年管の更新延長は、関連工事の遅れなどにより、約4kmに留まったものの、平成29年度末の経年化管路率については約37%に留めることができました。	B 一部達成

総合評価・総括
<p>経年化した浄配水施設の更新・改良につきましては、各水処理設備や計装設備などの更新・改良を当初の計画どおり実施しました。なお、津雲分岐流量計等の更新については、関連工事の工期延長に伴い施工が若干遅れていますが、関連工事完了後速やかに実施しH30年6月末までに完了する予定です。</p> <p>年々増加していく経年管の更新につきましては、一部の工事を翌年度に繰越したことにより、目標の5kmには達しませんでした。平成28年度の繰越し工事が完了したことなどにより、経年化管路率は約37%に抑えることができました。</p> <p>今後、浄配水施設、管路ともに第2次上水道施設等整備事業に基づき計画的に工事を進めてまいります。</p>

部(局)名	水道部
-------	-----

重点課題 3 基幹管路の耐震化をはじめとした災害対策の強化

全体の達成度
B
一部達成

目指すべき方向
(中期的な目標) 災害時等の非常時においても、可能な限り断水することなく安定した給水が図れるよう耐震化等の施設整備を進めるとともに、災害時給水所の整備を図ります。

活動目標

基幹管路の耐震化を計画的に実施します。

災害時に、より身近な場所での給水が可能となるよう、現在9か所ある災害時給水拠点に加えて災害時給水所の整備を進めます。

具体的な取組実績

榎の木・万博送水管及び十三高槻線(幸町、吹東町工区)の配水本管等、合計で約1.4kmの基幹管路の耐震化を実施しました。

災害時給水所の整備を図るため、仮設貯水槽を12基導入しました。

達成目標

基幹管路整備を約1.9km実施し、平成29年度末基幹管路耐震化率 41% を目指します。

9か所の災害時給水拠点に加えて、災害時給水所を12か所とすることを目指し小学校への仮設貯水槽の配備を進めます。

達成状況	達成度
基幹管路の整備延長は、関連工事の遅れなどにより、約1.4kmに留まったものの、平成29年度末の基幹管路の耐震化率は、約41%になりました。	B 一部達成
9か所の災害時給水拠点に加え、災害時給水所として12か所の小学校へ仮設貯水槽を配備しました。	A 達成

総合評価・総括

基幹管路整備につきましては、一部の工事を翌年度に繰越したことなどにより、約1.4kmの実績に留まりましたが、基幹管路の耐震化率につきましては、平成28年度の繰越し工事が完了したことなどにより目標数値を達成することができました。

また、災害時給水拠点及び災害時給水所の整備を図ることにより、市内どこからでも約1km以内の距離で応急給水が可能となりました。

今後も計画的に基幹管路の耐震化・更新を実施するとともに、応急給水対策の強化・充実を図るなど、災害に強い水道システムの構築を進めてまいります。

部(局)名	水道部
-------	-----

重点課題 4	より安全でおいしい水の供給
--------	---------------

全体の達成度
A
達成

目指すべき方向 (中期的な目標)	水安全計画の運用により安全性の向上を図るとともに、水道GLP(優良試験所規範)の事業所としてより高いレベルで水道に対する信頼を確保していきます。また、水道水中への鉛成分溶出の可能性が危惧される鉛製給水管の解消に向けた取組を進めます。
---------------------	--

活動目標
水安全計画の運用とともに実施状況を検証します。併せて水道GLP対象の水質基準51項目をはじめ100項目以上の水質検査を実施し、水道水の安全性を確保します。
鉛製給水管の解消に向けた面的整備として、山手町、五月が丘地域ほかを対象に取替を実施するとともに、管路の更新や修繕、その他工事などあらゆる機会を捉えた解消に努めます。

具体的な取組実績
水安全計画に基づき水源からじゃ口まで総合的な水質管理を行い、安心安全の水道水の供給に努めています。工務室と連携して水安全計画検討委員会を開催し、水安全計画の運用状況を検証するとともに、水安全計画運用実務手帳第2版を発行し、全職員に配布を行いました。
面的整備では、山手町、五月が丘等の地域において、鉛製給水管の残存状況について全件調査を行い、調査の結果と、前年度申し込み分(垂水町の一部)を加えた布設替工事によって約2,000件を解消しました。また、管路の更新や修繕、その他の工事の際に行った布設替工事や調査の結果、約2,800件の解消となりました。

達成目標
水安全計画検討委員会、水処理検討委員会を定期的で開催します。また、水道GLP精度管理実施計画書に基づき、適切に精度管理を実施します。
面的整備をはじめあらゆる機会を捉えた取替工事を進め、平成29年度鉛製給水管の解消件数2,900件を目指します。

達成状況	達成度
水安全計画検討委員会は6回、水処理検討委員会は12回の開催を行いました。水道GLPに基づく精度管理については計画通り実施するとともに、公益社団法人日本水道協会による2年に1回の書類審査においても適切に精度管理が実施されていると評価されました。	A 達成
面的整備等のほか様々な機会を捉えて鉛製給水管の取替工事を進めたことにより、目標をほぼ達成しました。	A 達成

総合評価・総括
<p>水安全計画につきましては、水安全計画検討委員会を定期的を開催することができました。水道GLPにつきましては、水質検査の信頼性確保のため、引続き適切な運用に努めてきました。</p> <p>鉛製給水管の解消につきましては、早期解消を図るため、平成22年度から面的整備事業として取り組んでいます。平成29年度の面的整備では、対象地域の一部を次年度に先送りしたものの、その他の地域については全件調査のうえ取替工事を進めた結果、目標をほぼ達成することができました。</p> <p>今後も引続き、その他の工事での取替えの機会を最大限に生かして鉛管解消に努めるなど、鉛製給水管の残存件数を着実に減らしていきます。</p>

部(局)名	水道部
-------	-----

重点課題 5	積極的な情報の提供とPR・啓発活動・広聴活動の実施
--------	---------------------------

全体の達成度
A
達成

目指すべき方向 (中期的な目標)	水道事業への理解を深めていただけるように、積極的な広聴活動と分かりやすい情報の提供を行い、また、水道事業を身近に感じて親しみを持っていただけるようなPR活動を展開します。
---------------------	---

活動目標
ライフラインを維持し安全な水道水を安定して供給し続けるための取組を紹介することで、市民に水道事業をもっと身近に感じていただけるような広報を進めます。
様々な市民に水道事業について直接説明できる場を得られるような取組を進めます。

具体的な取組実績
平成29年(2017年)6月発行の「すいどうにゅーす」において、緊急復旧工事や夜間工事の様子を掲載し、安心して安全な水道水を供給するための取組を紹介しました。
「すいすいくん祭り」及び「吹田スタジアムフェスタ2017」では、水道に関する楽しいゲームとともに経営課題等をご紹介したほか、危機管理に関する「市民講座」の開催にも取組みました。また、次年度の「水道いどばた会議」の開催に向けた広報や手作りDVDの作成などの準備を進めました。

達成目標
広報誌「すいどうにゅーす」などで見えない仕事の見える化に引き続き取り組みます。
学校や地域団体等と連携して市民が水道事業への理解を深めることができる取組を実施します。

達成状況	達成度
「すいどうにゅーす」において、緊急復旧工事現場の様子や片山・泉連絡管布設工事のシールドマシンを紹介するなど、水道事業を支える見えない仕事を紹介しました。	A 達成
市内の大学と連携して、水道事業に関する講義を行ったほか、上記「具体的な取組実績」のとおり、様々な機会をとらえて水道事業をご紹介したことなど、市民の皆様にご理解を深めていただく取組を実施できました。	A 達成

総合評価・総括
<p>「すいどうにゅーす」や「部長ブログ」において、水道事業についての様々な取組や活動を紹介いたしました。その他、小学校で出前授業を実施し、水道水をより身近に感じていただけるよう、水に関するお話や水処理に関する実験を行いました。</p> <p>また、毎年夏に開催している「すいすいくん祭り」では2,000人以上の方々にご足を運んでいただいたほか、「吹田スタジアムフェスタ2017」に設置した水道ブースでは、サッカーと水をテーマにしたミニゲーム「世界初!?水中PK合戦」など、多数の市民の方々にご好評をいただきました。</p> <p>さらに、平成30年度(2018年度)に開催を予定している「水道いどばた会議」の実施に向けて、チラシの配布や手作りDVDの作成などの準備を進めたほか、無作為抽出で市民2,000人を対象に水道事業に関するアンケート調査を実施いたしました。</p> <p>市民に寄り添う地域の水道として、市民の皆様にご信頼していただけるように、広報広聴活動の推進にあたりまして、なるべく分かりやすく見える化を図るように工夫を凝らしながら、積極的な広報広聴活動に努めてまいります。</p>

部(局)名	水道部
-------	-----

重点課題 6	安定した経営基盤の継続
--------	-------------

全体の達成度
A
達成

目指すべき方向 (中期的な目標)	これからの水道システムの再構築を進めるため、財政面・組織面での経営基盤の安定を図ります。
---------------------	--

活動目標
今後の水道事業運営について、中・長期的な財政計画を備えた水道事業ビジョン（地域水道ビジョン）の策定及び推進方針を検討します。
強固な組織力を維持するために必要となる専門性を有した職員の育成を図るため、研修の充実や資格取得の支援を図ります。

具体的な取組実績
基本計画策定に向けて「企画室プロジェクトチーム」を中心とした推進体制を確立するとともにスケジュールを作成しました。推進体制の中で「第3次上水道施設等整備事業検討プロジェクトチーム」では施設整備の概算事業費を算出し、「財政計画会議」では、他市照会（32事業体）の結果を参考に財政シミュレーションを3パターン作成するなど取組を進めました。
専門的技術や知識の向上のための部研修を14回実施し、市が主催する研修以外で日本水道協会等が実施する外部研修に延べ234回参加しました。法定資格の取得につきましては、延べ13人が新たな資格を取得しました。

達成目標
新たな経営計画の策定に向けて、部内ワーキングチームにおいて課題整理を行います。また、水道事業経営審議会に計画策定について諮問します。
平成29年度職員資格取得度 (取得している法定資格数/全職員数) 1.8件/人を目指します。

達成状況	達成度
「広報・広聴」「人材育成」「環境・フューチャードesign」「危機管理」「効率化・広域化」の5つのワーキンググループを設置し、課題と対応策を検討し、報告書を取りまとめました。また、昨年9月5日に水道事業経営審議会に、吹田市水道事業の新たな基本計画について諮問いたしました。	A 達成
平成29年度の職員法定資格取得度は1.8件/人で、目標を達成いたしました。	A 達成

総合評価・総括
<p>水道事業の新たな基本計画について、平成30年度の策定を目指し推進体制を確立するとともにスケジュールを作成するなど着実に準備を進めることができました。また、基本計画の策定にあたり、市民意見をお聴きしながら進める必要があることから、重点課題5に記載する積極的な広報広聴活動の準備と並行して実施しました。また、水道事業経営審議会から5月に答申をいただく予定になっており、その答申を踏まえて今後の策定に向けての検討を進めてまいります。</p> <p>職員資格取得度は、平成29年度において昨年度より0.1ポイント上昇し目標が達成できました。今後も計画的に職員の資格取得を進めていき、専門知識を有した職員を育成していきます。なお、内部研修時間（職員が内部研修を受けた時間・人数/全職員数）は8.2時間で、第2期アクションプランにおける管理指標の目標値（7.5時間）を達成しました。</p>